

## 眼で見る世界の森林 (8)



### 沙漠の胡楊林 (*Populus forest*)

胡楊(*Populus euphratica*)は灰楊(*P. pruinosa*)とともに、ポプラ属の中では系統的に早い時期に分化し、特殊な進化を遂げた種である。胡楊は地中海沿岸部から中東を通過して中国の乾燥地まで分布しているが、最も多くの胡楊林が存在するのはタリム盆地であろう。タクラマカン



沙漠にはホータン河、タリム河などの大河が流れ、河岸に広大な氾濫原を形成している。このような場所のうち特に地下水位が浅いところでは胡楊林が広がっている。「新疆森林」(1990)によれば、新疆ウイグル自治区の胡楊および灰楊の天然林は21.89万haとなっている。この地域の天然林(103万ha)の主要樹種は天山云杉(*Picea schrenkiana* var. *tianschanica*)およびシベリアカラマツ(*Larix sibirica*)であるが、胡楊(含む灰楊)はそのおよそ1/5を占めている計算になる。胡楊・灰楊天然林の蓄積は1,054.1万 $m^3$ と推定されていることから、平均蓄積量は41.15 $m^3/ha$ と計算され、単位面積あたりの蓄積量はかなり小さい。地下水位の深淺、水質などによって林分の粗密度はかなり異なり、水条件の良い河岸近くは密度が高いが、そこから離れるにしたがって疎になる。

胡楊はポプラ属の中では最も耐塩性が高く、乾燥にも強い。タリム河中下流域では純林を形成する。灰楊は耐塩性が劣るため、上流域で胡楊と混生する。両種とも主に種子で繁殖するが、根萌芽も行う。面積は減少したが、地下水位が極端に下がらなければ旺盛な萌芽で再生するため、森林がほとんど無い

沙漠地域では貴重な資源であり、燃料材や建築材などに利用される。胡楊の種子が飛散する9月末頃には、胡楊林の林床は白い綿毛を付けた種子に覆われる。

写真はホータン河がイェルチェン河、阿克苏河と合流し、タリム川となる合流点付近の胡楊と灰楊の混交林でかなり立木密度が高い林分である。このあたりは広大な氾濫原となっており、地下水位が浅いため胡楊林、灰楊林、両者の混交林などが広がっている。しかし、一方で放牧や灌漑農業にも適しており、開拓が進んでいる。若い二次林や萌芽林が多いため、かつてはかなり乱伐されたと推測される。現在、伐採は禁止され、保護されると同時に更新補助、植林活動も行われている。

斉藤昌宏(森林総合研究所 REDD センター)

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は本号30頁を参照ください。